

福祉の輪 広げたい



社会福祉法人
緑友会

ホームページ

緑友会

検索



“クルリン” 伊勢原市公式イメージキャラクター。伊勢原市の名産である“大山こま”をモチーフにして誕生しました。誕生日は伊勢原市と同じ3月1日で、伊勢原の森の中から生まれたらしい…です。元気で明るくおちゃめで、伊勢原市をPRするために市内だけでなく市外・県外でも活動しています。(写真提供：伊勢原市広報戦略課)

第33号の内容

伊勢原市公式イメージキャラクター “クルリン”	1
NEWS 1～11	2・3
ピックアップ1～7	4～7
リレーコラム 私の気になる話題	8



“クルリン”は、道灌まつりでギター演奏を披露するなど市内外の様々なイベントに参加しています。ブロンズ像も製作されています。

NEWS 1 清川ホーム感謝状贈呈式！



令和元年8月29日、清川ホームの食堂において開設30周年感謝状贈呈式を開催しました。

日頃からご支援いただいている地域の皆様や保護者会、取引業者の方々に、感謝の気持ちをお伝えさせていただきました。

今後とも、宜しくお願ひ申し上げます。

~~~~~

## NEWS 2 令和元年秋の叙勲・県知事表彰！



荻原 壽生 氏

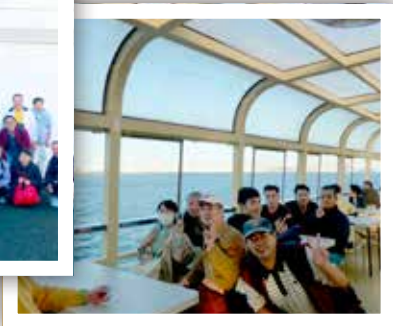


中台 和子 氏

元伊勢原警察署長の荻原壽生監事が令和元年秋の叙勲で瑞宝双光章を、元伊勢原市会議長の中台和子理事が自立支援功労者として神奈川県知事表彰を受賞されました。ご功績に敬意を表しますとともに益々のご活躍をお祈り申し上げます。

~~~~~

NEWS 4 旅行に招待していただきました！



つくし

令和元年11月12日（火）に公益財団法人小田急財団様から日帰り旅行に招待していただきました。つくし利用者様・ボランティア・職員等、総勢40名で横浜中華街・横浜港に行き、一同、思いっきり楽しい一日を過ごさせていただきました。小田急財団様、感謝申し上げます。

NEWS 3 記念誌を発行！



伊勢原ふたば保育園

これまでの歩みを振り返り、今後の取り組みを展望するため、伊勢原ふたば保育園の20周年記念誌を9月に発行しました。さらに清川ホーム30周年記念誌を3月に発行する予定です。10年毎の節目を大切に、これからも努力してまいります。

NEWS 5 安心・安全な食事を提供します！



緑友会では、利用者様への食事や保育園の給食に、加藤花園様（伊勢原市内）の燻蒸処理をしない無農薬米を使用していますが、昨今の暑さ対策として、食品害虫の発生を防ぎ一層の食品保管を徹底するため、各施設にライスストッカーを設置しました。これからも安心・安全な美味しい食事の提供に努めていきます。

NEWS 6 第6回職員交流会!



令和元年11月15日、厚木市のアマダンヒルズで第6回職員交流会を開催。職員78名・家族9名の総勢87名が参加しました。

緑友会の法人本部を含めた9つの事業所の職員交流を図り、お互いを知りあう良いイベントになっています。今年度で6回目、例年以上に和やかで楽しいひと時になりました。

NEWS 7 安全な食事支援のために!



みどり園



清川ホーム

利用者様に美味しく、安全に食事を召し上がっていただくため、みどり園では(医)厚誠会・松田悦子歯科医師を講師に招いて食事支援の研修を、清川ホームでは協力医であるたんぼぼ歯科様に利用者様の嚥下能力の評価・支援のアドバイスをいただきました。日々の支援に活用させていただきます。

NEWS 8 保育園独自メニューの給食開始!



メニュー



本厚木ふたば保育園

令和元年12月から本厚木ふたば保育園では、これまでの市の献立を参考にしたメニューから保育園の栄養士による給食メニューの提供を開始しました。園独自の美味しい給食を提供するよう職員一同努力してまいります。

NEWS 9 災害に備えた事前対応!



伊勢原ふたば保育園



みどり園

昨今の自然災害は突発的で大規模化しています。緑友会では、事業所ごとに事前準備、交通機関遮断時の支援体制、停電・断水時の対応・非常食の備蓄等々、非常時を想定した準備・訓練を行っています。より一層危機管理体制の向上に努めていきます。

NEWS 10 施設の改修工事!



伊勢原ふたば保育園



みどり園

伊勢原ふたば保育園では2階園児トイレ・1階ホールエアコン入れ替え等を、また、みどり園では食堂の改修を行いました。職員・利用者様にとってより良い施設となるよう、常に施設の点検や改善を行っています。

NEWS 11 表彰していただきました!

神奈川県社会福祉関係者等表彰(神奈川県知事表彰)

- ・池田 雄二 (みどり園: 主査)
- ・西出 裕美 (清川ホーム: 支援員)

社会福祉関係功労者表彰(神奈川県社会福祉協議会: 会長表彰)

- ・佐藤 順一郎 (清川ホーム: 副施設長)
- ・大塚 多恵 (みどり園: 主査)
- ・二宮 浩行 (清川ホーム: リーダー)

知的障害者福祉事業功労者表彰(日本知的障害者福祉協会)

- ・若菜 恵一 (清川ホーム: 主査)
- ・杉崎 秋仁 (つくし相談室: 主査)

ありがたいことに今年度も7名の職員が神奈川県や関係機関から表彰していただきました。本人はもとより、職員全員の誇りであり励みになります。心より厚く御礼申し上げます。

清川ホームでは、毎年7月下旬にサマーフェスティバルを開催しています。今年度も昨年の7月に26回目のサマーフェスティバルを開催することができました。このフェスティバルは、地域の方々との交流を図る場でもあり、毎年多くの方が来園してくださっています。催し物では、青龍太鼓保存会さんによる太鼓の演奏、煤ヶ谷婦人会さんの盆踊り、民芸団いろいろ座さんによる歌や演奏などのほか、みゅうじっくぼうる・めいさんと清川ホームの利用者さんによる歌やダンスが披露され、利用者さんも地域の方と一緒にフェスティバルを楽しんでいます。

また、緑中学校の先生方と生徒さんは模擬店を担当、ヨーヨーやゲームコーナーは子ども会さんが担当して下さるなど、ボランティア活動にも積極的に参加していただいています。そして、一昨年からは、フェスティバルのフィナーレとして最後に花火を打ち上げるようにしましたが、夜空を彩る花火を見て大きな歓声が響き好評となっています。

近年、地球温暖化の影響なのか、夏は猛暑日となることが多く、またスコールのような短時間の雨もあり、お祭りが無事に開催できるのか天気予報を毎日チェックする日が増えてきました。また、準備段階では利用者さんの支援をしながら外でお祭りの準備を行うため人手が足りないときもありますし、猛暑日となることが多く熱中症に罹るリスクが高くなることもあります。このため、人手不足の解消や熱中症へのリスク回避に向けて準備が短時間で終わるよう地域の方々に応援を依頼することにしました。今年度は、清川村いきがい事業団さんと伊勢原の便利屋さんへ依頼し、草刈りやテントと椅子の運び出し、櫓とテントの設営をお手伝いいただきました。

清川村いきがい事業団の皆さんには、普段から草刈りをお願いしており、とても上手にしかも手早く作業を進めていました。草刈り機の刃は、ナイロン製のものと鉄性のものがあり、場所によって使い分けると良いと教わることもできました。便利さんは、櫓やテントの設営等に手際よく作業をしていただきました。

草刈りやテント設営といった力仕事を外部の方が行ってくださることで、支援員の負担が随分と軽くなり、その分チケットの作成やお花づくりと施設内で行う準備作業も順調に進めることができました。

清川ホームは、創立30周年を迎え、利用者さんの年齢も上がり高齢化率が高くなってきています。暑い中、長時間を外で過ごす体力がない利用者さんもいるため、今年度から、イベント用ライブカメラを導入して施設内のテレビで外の様子を見ることができるようになりました。その結果、施設内で過ごしていても、外で行われているフェスティバルの様子が分かるようになったことで、ゆっくりと食事を摂りながらフェスティバルを見て楽しむことができるようになったと喜ばれました。暗くなり大勢の人の中を歩くのも困難となった方も、最後の花火に歓声を上げていました。

これからも、外部の人の力をお借りしながら、利用者さんにとっても地域の方にとっても良いお祭りとなるよう企画・運営に努め、地域の人たちと関わりあえる場としてフェスティバルを盛り上げていけたらと考えています。

（清川ホーム リーダー支援員 永田 知則）



ピックアップ 2

指先の発達を促す遊び～シュガートングと洗濯ばさみを使って～（伊勢原ふたば保育園）



現在、2歳児クラスを担当しており、日々の遊びの中で指先の発達を促せるような遊びを取り入れています。例えば、シュガートングを使って物を移動させたり、洗濯ばさみを使ってキャラクターの台紙に付けたりしていますが、子どもたちはとても楽しみながら遊んでいます。このシュガートングと洗濯ばさみは指先の力をとても使うため、箸を持つ手の形が身につく指先に力があることで、箸を動かすことがスムーズにできるようになってきます。指先は「第二の脳」と言われるほど重要であり、小さいときから指先をたくさん使った経験をすることで、年齢を

重ねるごとに子どもたちの遊びや製作などの幅が大きく広がってきます。その他にも、紙をちぎる製作を多く取り入れたり、フェルトでおにぎりを製作したりしています。おにぎり製作では、中に鮭、梅、昆布の具材を入れて、保育士や友だちに食べさせようとする姿も見られます。

子どもたちは、今年の4月には3歳児クラスに進級しますので、少しずつ身の回りのことを自分で行えるよう保育士と一緒に頑張っています。初めは保育士に手伝ってもらっていた着替えや洋服の脱ぎ方、畳み方などを繰り返し行うことで、自分一人で行えるようになりました。日々の生活習慣の中にも指先を使って行う事も多く、一つ一つ丁寧に伝える子どもたちに伝えています。「自分でできた！」という成功体験を積み重ね、一人ひとりが大きな自信を持って3歳児クラスに進級できるように、これからも保育を行っていきたいと思います。

（伊勢原ふたば保育園 リーダー保育士 森下 麻衣）



ピックアップ 3

運動プログラムについて（つくし）

つくしでは、「定期的に運動をする機会がほしい」という利用者さんの要望を受けて昨年度より「運動プログラム」を隔月に1回実施しています。運動プログラムでは、これまでにソフトバレーボールや卓球、ソフトボール、バドミントンを行いました。どのスポーツを行うかは利用者ミーティングで希望をとって決定しており、参加は任意となっています。

利用者の方々にとって運動をすることは、体力づくりだけでなく、余暇の充実や気分のリフレッシュなど多くの効果があります。また、精神科医療においては、運動が様々な精神疾患（うつ病、認知症、不安障害、パニック障害等）に対して治療効果があることが近年分かっており、注意欠陥・多動性障害（ADHD）や双極性障害、統合失調症において療養の補助として位置付けられているなど、運動には大きな期待が寄せられています。

つくしではそういった治療とまではいかなくとも、それらの効果を得る目的や運動することそのものを楽しむ機会をつくるといった目的で運動プログラムを行っており、これまでの運動プログラムの成果としては、例年参加しているソフトボールやソフトバレーボールの大会といった行事への練習時間をより多く取れるようになった

ことも挙げられます。利用者の方々は今まで以上に熱心にこれらのスポーツに取り組めるようになり、このこともまさに機会の増加からなされたものだと言っています。

運動プログラムの参加者はつくしの登録者50名中、3～8名とあまり多いとはいえませんが、運動することの楽しさを伝えてさらにその輪をひろげていけるよう、今後も利用者さんの要望や視点を大事にしたアイデアを出し、つくしに合った形の運動プログラムを実施していきたいと考えています。

（つくし 職業指導員 高瀬 雅典）



ピックアップ 4

☐ 風邪予防＝ノドの乾燥を防ぎましょう(医療担当者会議) ☐

風邪をひきやすい時期です。風邪の原因は80%～90%がウイルスと言われています。そのウイルスにもいくつかの型があり、年々変化していくため繰り返し風邪をひいてしまうのです。

風邪をひくとノドが痛くなるのは、粘膜の働きが悪くなってしまうためで、粘膜に覆われているノドは、空気中のウイルスが体内に侵入するのを防ぐ役割を果たしています。風邪予防は、ノドの乾燥を防ぎ、潤いを与えることがポイントです。

乾燥を防ぐ方法として、室内湿度を40%～60%に保つと快適とされています。40%以下になるとインフルエンザウイルスが活動しやすくなります。そこで、手軽に室内湿度を保つ方法に、濡れタオルを干したり、霧吹きを使用するなどが一般的に行われています。



そのほか、2つの風邪の予防方法を紹介します。ひとつは「緑茶うがい」です。緑茶に含まれる「カテキン」は殺菌作用のある成分が含まれています。ノドやクチの中の粘膜にウイルスなどの付着を防いでくれます。

もうひとつは、「濡れマスク」です。ぬるま湯にマスクをひたし、軽くしぼって鼻を出すように外側へ上1/3を折り返します。これで息苦しさは解消されます。この方法は、睡眠中のノドの乾燥を防ぐ方法として効果的です。ぜひみなさんも実践してみてくださいはいかがでしょうか。

(みどり園 看護師 橋本 キイ子)

~~~~~

## ピックアップ 5

### ☐ 園児の笑顔がみたくて (調理・栄養担当者会議) ☐

伊勢原ふたば保育園で行っている行事の一つに『園長レストラン』があります。これは、お誕生月の5歳児クラスの園児と園長先生と一緒に給食を食べるイベントで、5年程前から行っています。幼稚園に通われていた園長先生のお子様がある日、「今日は、園長先生と一緒に弁当を食べたんだよ。いっぱいお話して、とっても楽しかったよ」と嬉しそうに話したことを思い出し、それをきっかけに始めようと思ったそうです。

まず、園長先生が「お誕生日のお祝いします」と手作りの招待状を園児に渡します。もらった園児は、何をやるのだろうとびっくり、ドキドキです。そして当日は特別にプレートに盛り付けられた給食を園長先生と一緒に食べます。私たちは、どんな話をしているのか知りませんが、時には恋の話をすることもあるそうです。

始めた頃は給食だけでしたが、一昨年から一日を通したハッピーデーとして、午後のおやつも特別なものにして園児だけではなく誕生月の職員も一緒にお祝いすることになりました。そのおやつは、通常のメニューとは違う手作りのおやつを用意してほしいと園長先生に言われました。

ここで、私たち調理員の出番です。私はケーキ作

りがあまり得意ではありませんが、シフォンケーキを焼いてみようと思いました。レシピ本を購入して、家で何度も試作をしたり、見た目も大切なので盛り付けを色々考えたりしました。

そして、当日に完成したシフォンケーキを園児たちの所へ持っていくと「わぁ すごい!! つくったの?」と目をまん丸にして驚いてくれました。もちろんお家でもお誕生日ケーキを食べることはあると思いますが、保育園で園長先生やお友達、職員と一緒に食べるケーキは、また違った楽しみがあると思います。そして「おいしかった!」と言ってもらえると、私もうれしくて、次回はどんなおやつにしようかなと考えますと楽しくなります。

伊勢原ふたば保育園では、食育にも力を入れ、給食は勿論ですが、園長レストランでも食の大切さや、食事の楽しさなどを伝えています。これからも職員一同、力をあわせてがんばりますので、よろしくをお願いします。(伊勢原ふたば保育園 調理員 江部 紀子)



## ピックアップ6

### 職員確保の取り組み（総務部）



「福祉業界では人員確保が厳しくなっている」私が入職してから毎年のように言われている言葉です。

緑友会も、毎年の新入職員確保のため、学校訪問や就職セミナー、チラシや求人媒体を用いての募集、インディードやマイナビ、ホームページ等インターネットを用いた募集など、職員確保に向けた考えられる手法を駆使して努力してきました。

その甲斐あって、これまで緑友会では、毎年、新卒採用・中途採用を問わず職員を採用できている状況ですが、職員採用を巡る方法は毎年変化するため、法人の採用活動も常に最新の状態にブラッシュアップしなければなりません。

新卒学生の就活スケジュールも年々タイトになってきていますし、専門・短大生の専願が廃止となっている学

校も出てきています。また、募集案内に3年以内の離職率や有給休暇取得率・月平均残業時間等のワークライフバランスに係る記載も増えており、働き方に対する見方も変化していることが見て取れます。

緑友会でも現在の就活状況に則した内容とするため、新卒で入職した職員への聞き取りを行い、採用試験の見直しを行いました。過去には筆記試験・作文・面接・実技試験と4科目あった採用試験も、現在は面接のみの試験に改善し、より多くの学生が試験を受けやすくなるよう工夫をしてきました。

もちろん、試験科目が減ったからと言って応募が来るわけではありませんし、国や市町村独自の処遇改善や給与に対する補助など、法人の努力ではどうしてもできない行政レベルでの格差が生じているのも事実です。

このため、法人としての取り組みのアピールや働き方、福利厚生の実等、利用者様だけでなく働く側からも「選ばれる法人」になるための努力が必要となりますので、緑友会施設全体で働き方や職員採用に取り組むことが一層重要になっていくと感じています。

（総務部 事務員 後藤 和希）

~~~~~

ピックアップ7

紅葉に教えられ（総務部）



この「福祉の輪広げたい 第33号」が発行されるのは1月ですが、この原稿を書いている昨年11月は紅葉の真っ盛りです。都会のイチョウの黄色、山肌を彩る赤、黄、緑のコントラスト、いずれも見事で見ると見る者を圧倒します。皆さんのなかでも紅葉狩りを楽しまれた人は多いのではないのでしょうか。

日本の四季のなかで、春の桜前線と並び称される秋の紅葉前線は、9月ごろ北海道の大雪山で始まり徐々に南下してきます。日本は国土の約7割が山林で、様々な広葉樹があり寒暖の差もあるため、北から南へと多くの地域で紅葉を楽しむことができ、その美しさは世界で一番とも言われています。

ところで、なぜ毎年この時期に木の葉は紅葉するかご存じですか。調べてみると、春夏の気温の高い時期は、木の葉が日光を浴びて光合成により十分な栄養を作り出しますが、秋になり徐々に

に気温が低くなると作られる栄養も少なくなってきます。このため、葉を維持するエネルギーが、作られるエネルギーよりも高くなり、このままでは採算が合わないため葉を落とす準備を始め、葉が役割を終える過程で葉の中のクロロフィルとか、アントシアニンとかの成分が減ったり増えたりすることで黄色になったり、赤色になったりするようです。私たちが紅葉を楽しんでいる裏で、樹木は冬支度をし、次の春に葉を出すための準備をしているわけです。

何気なく、その美しさに感嘆している私たちも、樹木の神秘のメカニズムと同じように生活や仕事をしていくうえで、次を見据えた準備をしていくことが大切ではないのでしょうか。

（総務局長 矢作 政行）



清川やまびこマラソン大会 ボランティアに参加して

皆さんは、昨年のラグビーワールドカップはご覧になりましたか？

日本は悲願のベスト8を達成し、日本ラグビーに新しい歴史を刻みました。私はラグビーのルールも選手も知らない「にわかファン」でしたが優勝候補の強豪国を日本が勝ち抜く姿を観て、興奮し感動しました。そして、さらに感動したことは、カナダ代表が台風19号で被災した釜石市で土砂を取り除くなどのボランティア活動を行ったことです。

私も学生の頃は色々なボランティアを経験しましたが、就職してからは、なかなかできなくなっていました。娘たちも大きくなり自分の時間も増えたことによって、またボランティアをしたいという気持ちになり、清川村広報誌で第32回清川やまびこマラソン大会ボランティア募集の記事を見て申し込んでみました。

清川やまびこマラソンは、宮ヶ瀬湖や秋の山々の美しい景色を見ながら走る清川村の魅力が詰まった大会です。この大会は娘たちが小・中学校の時に参加していた大会でもあり、今回はボランティアとして大会を盛り上げていきたいと思いました。私は会場監視係をさせていただきました。ランナーが「お願いします。」と声をかけてくれたり、逆にレース中のランナーに「頑張っ！」と声をかけると、苦しいはずのランナーが笑顔になったり、お辞儀をしてくれたり、「ありがとう！」と声をかけてくれたりして、本当に心が温かくなり、人との触れ合いは素敵だなと痛感しました。

娘たちが参加していた大会に恩返しのために参加させていただきましたが、自分自身の心が豊かになり生きることへの感謝の気持ちでいっぱいになりました。ボランティアは「誰かを助ける」「世の中の役に立つ」というだけでなく自分自身の心が豊かになる素敵な活動です。一躍時の人となった「スーパーボランティア」の尾畠さんまでとはいきませんが、この先の人生、自分自身のためにもボランティア活動を続けていきたいと思っています。



今回は、伊勢原ふたば保育園の中堅職員が担当します。



編集後記

伊勢原市の観光行事「道灌まつり」では、パレードが通過する緑友会本部建物前に1年を象徴するテーマの顔出しパネルを毎年設置しており、去年は左のとおり



『令和』でした。

新しい年号になり、初めての新年を迎えました。新しい年が輝かしい1年となりますよう皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

理事長：岩崎尊之

「福祉の輪拡げたい」第33号

発行：2020年1月

発行責任者：岩崎尊之（理事長）

編集責任者：矢作政行（総務局長）

事務局：社会福祉法人緑友会 総務部
伊勢原市伊勢原 3-6-7
Tel 0463-73-7221

印刷：カサハラ印刷株式会社
伊勢原市白根 475-1

社会福祉法人緑友会 各施設のご案内

社会福祉法人緑友会 本部・総務部

伊勢原市伊勢原3-6-7 Tel: 0463-73-7221

障害者支援施設 **みどり園**

伊勢原市粟津605-1 Tel: 0463-93-4722

障害者支援施設 **清川ホーム**

愛甲郡清川村煤ヶ谷3293 Tel: 046-288-2911

認可保育所 **伊勢原ふたば保育園**

伊勢原市高森1391-3 Tel: 0463-92-6226

認可保育所 **本厚木ふたば保育園**

厚木市田村町7-3-2F Tel: 046-295-2525

知的障害者グループホーム **げんき家**

伊勢原市桜台2-16-25-201 Tel: 0463-91-7865

就労継続支援B型事業所 **つくし**

伊勢原市伊勢原3-6-7 Tel: 0463-92-7900

相談支援事業 **つくし相談室**

伊勢原市伊勢原3-5-7 Tel: 0463-73-6027

就労継続支援B型事業所 **アトリエ ヴェルデ**

伊勢原市高森1422-7 Tel: 0463-79-8181